

一般社団法人日本独文学会 2019年度事業報告書

一般社団法人日本独文学会は任意団体日本独文学会の後継団体としてその事業を継承し、2019年度に次の事業を行った。

1. 春季（学習院大学）及び秋季研究発表会（成城大学）の開催

- ・ 2019年6月8日、9日両日、学習院大学目白キャンパスにおいて一般社団法人日本独文学会第1回社員総会および春季研究発表会が開催され、454名が参加した。研究発表会の内訳はシンポジウム8本、口頭発表16本、ブース発表2本、ポスター発表5本で、活発な討論および意見交換が行われた。また、ディートマー・レスラー氏を迎えての招待講演、ドイツ語教育部会総会、ドイツ語教育部会による「大学ドイツ語入試問題検討委員会」展示発表、第16回日本独文学会賞授賞式、第59回ドイツ語学文学振興会賞授賞式、書店・出版社による各種展示が行われた。
- ・ 2019年10月19日および20日両日、成城大学において秋季研究発表会が開催され、243名が参加した。研究発表会の内訳はシンポジウム3本、口頭発表13本、ブース発表2本、ポスター発表2本で、活発な討論および意見交換が行われた。また、ドイツ語教育部会総会および教育部会アイデア賞コンテスト受賞式ならびに書店・出版社による各種展示が行われた。

2. 機関誌 „Neue Beiträge zur Germanistik“ の発行（年2冊、うち1冊は国際誌）

- ・ 159号（欧文誌）を2020年3月に発行した。
- ・ 160号（和欧混合誌）は2020年3月末の時点で編集中であり、5月下旬に発行予定。特集「文芸公共圏」10篇、一般投稿の文学文化4篇、語学2篇、書評・新刊紹介10篇を掲載する予定。

3. 文化ゼミナール・語学ゼミナール・教授法ゼミナールの開催及びその記録論集の発行

- ・ 第58・59回文化ゼミナール論集（„Zäsuren - Welt/Literatur“ 58./59. Kulturseminar）を2019年12月に iudicium 社から刊行した。また、2020年3月15日から20日に予定されていた第62回ドイツ文化ゼミナールは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となった。
- ・ 2019年9月3日から6日までコープイン京都（京都市）で第47回語学ゼミナールが開催された。講師は Sebastian Löbner 教授（デュッセルドルフ大学）、ゼミナールのテーマは Frames als universelles Konzeptformat und Mittel der sprachlichen Analyse、参加者は31名であった。また、第46回語学ゼミナールの論集 „Linguisten-Seminar : Forum japanisch-germanistischer Sprachforschung“ の第2号が2020年2月に J-Stage で公開された。
- ・ 第22回・第23回教授法ゼミナールの論集 „Erträge des JGG-Seminars für Deutsch als Fremdsprache“ 第1号が2020年2月に J-Stage で公開された。また、2020年3月20日から23日に予定されていた第25回教授法ゼミナールは新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い中止となった。

4. ドイツ語教員養成・研修講座の実施

- ・ドイツ語教育部会、東京ドイツ文化センターとの共催で開催している「ドイツ語教員養成・研修講座」は、2019年度は2017年度秋開講コースの後期分の中の4回のワークショップと2019年秋開講コースの前期分の中の4回のワークショップが行われた。今期からZoomにより会場外からの参加も可能となっている。また、専用のプラットフォームであるMoodle上では、受講者同士、また受講者と講師の間でドイツ語教育をめぐるディスカッションが展開され、受講者・講師双方にとって、ドイツ語教育について再考する刺激的な議論の場となっている。

5. 日本独文学会・DAAD賞の授与

- ・第17回日本独文学会・DAAD賞が下記のように決定した。
日本語論文部門：針貝真理子：都市の声、餌食の場所——ルネ・ポレシュ『餌食としての都市』における「非場所」の演劇（『ドイツ文学』156号）
ドイツ語研究書部門：Yoshihiko Hirano: *Miszellaneen zu Celan. Entwürfe zu Naturgeschichte und Anthropologie.* (Würzburg: Königshausen & Neumann 2018)
なお、2020年度春季研究発表会が中止となったため、授賞式は富山大学での秋季研究発表会で行う予定。

6. 日本独文学会研究叢書の発行（ウェブサイトによる電子出版）

- ・日本独文学会研究叢書は2019年度に以下の4冊が公開された。
Nr. 134 *Literaturtheorien in der Anwendung* (2019. 5. 26)
Nr. 135 *情報構造と話し手の状況把握* (2019. 5. 27)
Nr. 136 *第一次世界大戦の諸相—個と全体の視点から—* (2019. 10. 19)
Nr. 137 *Interkulturalität und Intermedialität im deutschen Krimi* (2019. 10. 19)

7. アジアゲルマニスト会議2019の開催（北海学園大学）

- ・アジアゲルマニスト会議2019は北海学園大学豊平キャンパスを会場として2019年8月26日から8月29日にかけて行われた。22か国・地域から合計251名の参加があった。会議では8件のPlenarvorträge、165件のSektionsvorträgeの他にGoethe-Institut Tokyoの企画によりGER増補改訂にともなう諸論点に関して特別講演とパネルディスカッションが行われた。最終日(29日)には全体テーマ „Einheit in der Vielfalt? – Germanistik zwischen Divergenz und Konvergenz” についての総括討論を行った。また、文化プログラムとして市民向け「ドイツ映画の夕べ」(28日)と中高生対象の「ドイツ語ワークショップ」(27日)を開催した。なお30日には学術・文化交流プログラムとして小樽へのTagesausflugを行った。また、若手支援として16名に岩崎奨学金を支給した。各発表に基づく論集をiudicium社からオープンアクセスの電子出版の形で2020年度刊行予定。

8. その他のドイツ語、ドイツ文学及びドイツ語教育の研究及び普及に資する事業

- ・2019年12月7日・8日、4名の招待講師を迎えて、2019年度ドイツ語論文執筆ワークショップが開催された。今回のワークショップ参加者は大学院生、若手・中堅研究者を中心にし、非会員の高校生や学部生も交えた計9名であった。